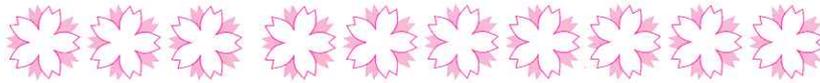


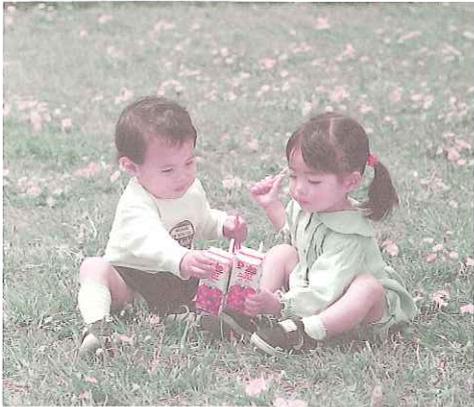


全国

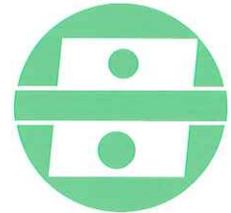


第1号

母親クラブだより



- 四役員挨拶
- 年中行事
- 活動報告
- 行政ニュース
- 関係団体の紹介
- イベント報告
- お知らせ
- 事務局だより

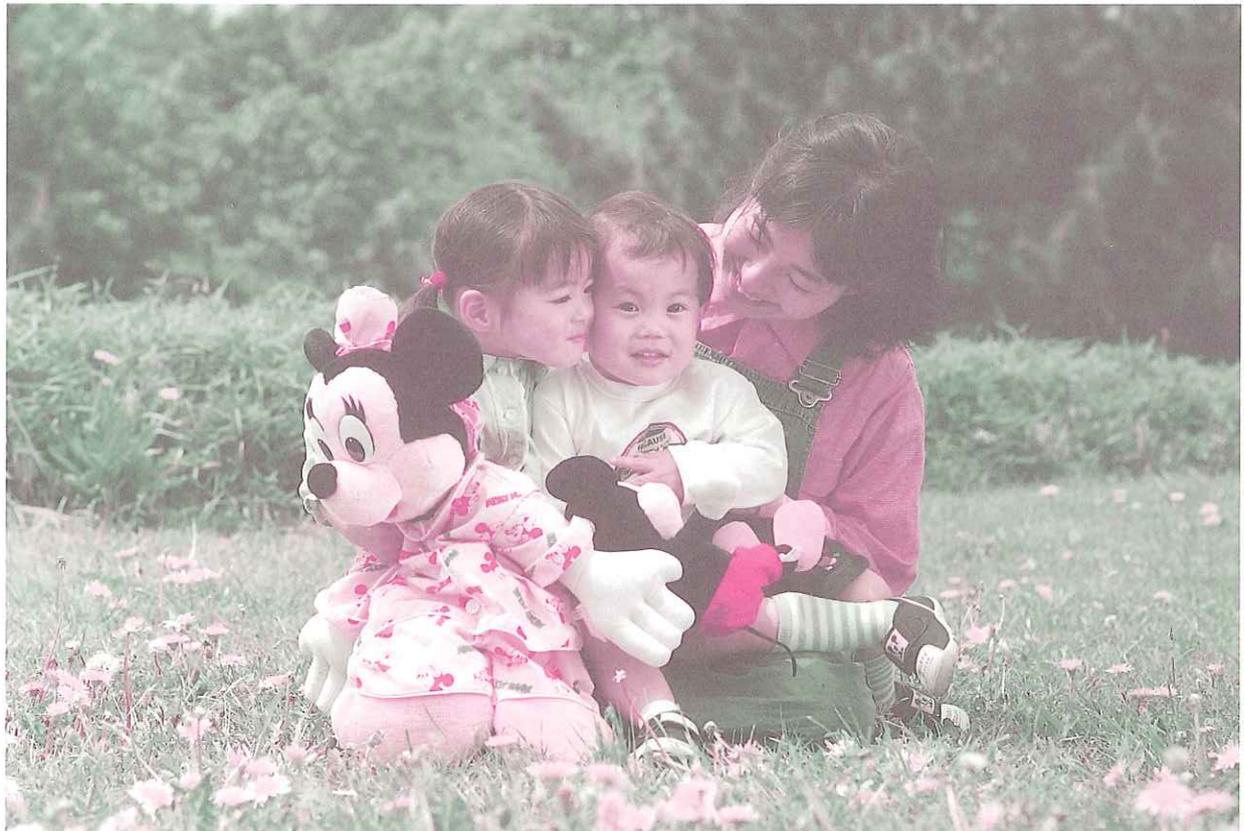


発行

全国母親クラブ連絡協議会

〒156 東京都世田谷区松原2-42-7 (財) 東邦生命社会福祉事業団内

TEL. 03-5376-6900 FAX.03-5376-8385



会長「あいさつ」



重田 強子

人はみな、一年経てば一才加齢します。子供は眠っている間も刻々と成長しています。

その子供たちと共に歩んで、全国母親クラブ連絡協議会も二十余年の歴史を綴ることができました。現在の姿があるのも、諸先輩のご苦勞と厚生省を初めとして各地方行政の温かいご指導と、事務局であります東邦生命社会福祉事業団のご支援の賜と深く感謝申し上げます。

またここに、輝く二十一世紀へ送り出す子供たちの健やかな成長を願って「母親クラブだより」の発行ができますことを、みなさまと共に祝福いたします。

周りに悩んでいる人があれば、「一人じゃないのよ」といって助け合い、嬉しいことがあったらみんなまで分かち合える。そんなつながりが持てる全国四十万人会員のネットワークの場として、この会報が心をつなぐ絆となることを祈念してご挨拶いたします。



副会長あいさつ

全国母親クラブ連絡協議会
(北海道・東北・関東ブロック長)



竹内 峰子

母親クラブに関わってもう二十年。気がついたら今の自分が「いる」が実感です。これでもいいのか母親クラブ、これが母親クラブかといつも自問自答してきたように思います。子育て同様、母親クラブにあっても共に育ち共に育てられた、そして今の自分に育ったと思っています。一人では何もできなかったらうし、自分を理解し協力してくれる、一緒にやってくれる多くの仲間がいたことや支援してくれる方々に恵まれたお陰で「今の自分」があると思っています。全母協、それぞれのスタンスは違っても願うのは一つ「子ども達のしあわせ」です。仲間として友として、膝を交え母親クラブを語れたらいいなと思っています。

全国母親クラブ連絡協議会
(中部・近畿ブロック長)



細川 豊子

副会長就任にあたり、一言ご挨拶申し上げます。私事、この度中部近畿ブロック代表として、全国母親クラブ副会長の重任を頂き感慨無量に存じます。この気持ちを忘

れることなくその役目を果たしてまいりたいと存じます。

先づ、私自身が心を入れかえ寛大な心、ゆとりの心、目先のきく女性になるよう努力してまいりたいと存じます。そして全国母親クラブの組織の充実を土台として、全国に母親クラブのボランティア活動をアピールするために、役員同士力を合わせその力量を発揮するために、全力投球をしてまいりたいと存じます。そして地域の子どもの健全育成及び福祉の向上に責任と役割を果たすべき努力と母親クラブのネットワークづくりに努力をしてまいります。皆様方のご支援ご協力のほどよろしくお願いいたします。

全国母親クラブ連絡協議会
(中国・四国・九州ブロック長)



清家 小代子

全国の母親クラブの皆さん、如何お暮らしてはいかがでしょうか、私が申し上げることもありませんがご案内のように子供は無数の可能性を持っていると云われています。その子供達の育成の一端を担う組織団体として心身共に健康であり、且つ健全である様に努力しなくてははいけないと考えます。年毎に地域の連携が希薄になりつつある現在、一人の百歩より百人の一步を重視して地域の実状と環境に合った活動をし、一人でも多くの人に声をかけ協力しあって小さな出来事にも大きな喜びを感じる子供に育てることが母親クラブとしての使命でもあろうかと考えます。これを機に更に全県にわたり人間関係の融和が計れる事を願って挨拶と致します。

平成9年度
主な年中行事

<平成9年度統一テーマ> みんなで育てる地域の子
ー母親クラブでネットワークをー

◎ブロック別母親クラブ指導者研修会

◆中国・四国・九州ブロック・・・6月5日(木)～6日(金)
愛媛県松山市「メルパルク(郵便貯金会館)」

◆中部・近畿ブロック・・・7月17日(木)～18日(金)
静岡県静岡市「静岡音楽館AOI」
「サンパレスホテル」

◆北海道・東北・関東ブロック・・・9月11日(木)～12日(金)
秋田県南秋田郡「サンルーラル大潟」

◎母親クラブ全国大会・・・11月6日(木)～11月7日(金)
山形県上市市「上市市体育文化センター」
「古窯」

◎「全母協」役員会・・・7月29日(火)～30日(水)
東京都渋谷区「東邦生命本社」

◎「母と子のたのしい音楽会」

◆松山開催・・・8月6日(水) 愛媛県松山市「愛媛県 県民文化会館」

◆秋田開催・・・8月20日(水) 秋田県秋田市「秋田県民会館」

◎「全母協」四役員会・・・10月上旬：3月上旬
東京都世田谷区「全母協・事務局」

◎「全母協」代表者会議・・・12月中旬
東京都渋谷区「こどもの城」他



全国母親クラブ

活動報告

東北・関東・北海道ブロック

山形から
楽しく遊んでます私たち

山形県母親クラブ
連絡協議会

私たち、山形県母親クラブ連絡協議会では今「遊び」をメインテーマにおいて活動をしています。子どもたちと一緒に遊べるお母さん、子どもたちと共有の時間を持つお母さんでありたい。家庭においても地域においても子どもの数が年々減っています。テレビやファミコンそしてマンガ本と一人遊びや一人の時間が多くなりました。大人も子どもも家庭でも地域でも一緒に時間をいっばい持てたらいいなと思ってこんなことをやっています。

1、プレイリーダー養成講座の開講
年四回講座で遊びの達人をめざします

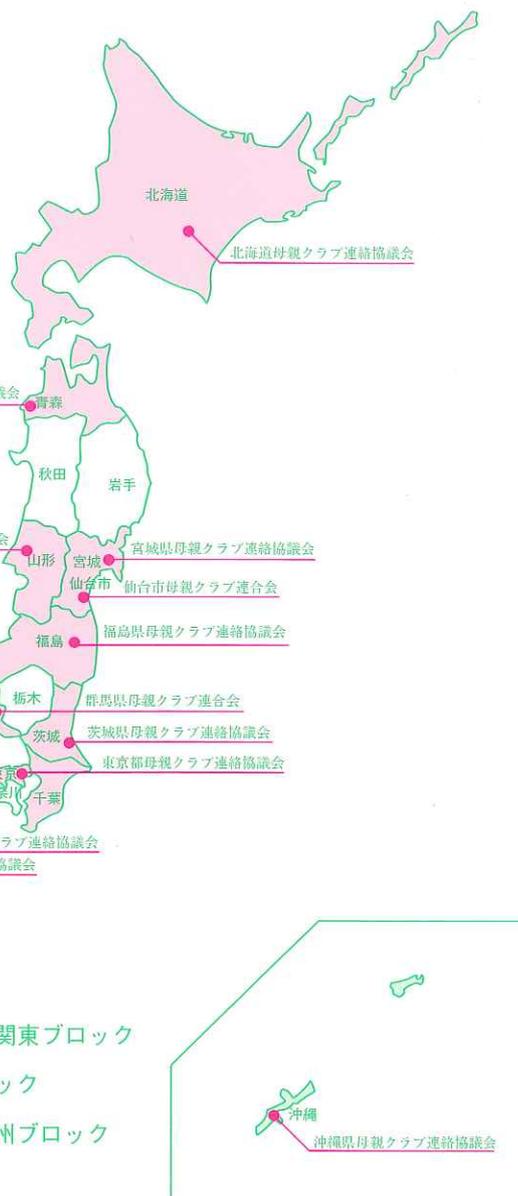
1、手話で歌とお話を
今は障害者も健常者も共生社会どんな子どもとも一緒に遊べる、話せるリーダーに、との思いから今年度の新企画です。

2、手づくりおもちゃと手づくりの遊び
身近にある廃品を利用しておもちゃづくりや、遊ぶ仲間がいたら何もなくてもあそべる手づくりの遊びをマスターします。

3、人形劇 人形の製作から演技発表まで



2、県の委託事業 遊びのネットワーク
推進事業「母と子の遊びの広場」の開催。
今年度は七つのモデル地区事業と一つの広域事業を実施しました。
母親クラブが主体となり地域における児童の育成関係団体と協力しながら遊びの広場を企画し実施するものです。
キャンプ・お祭り広場・ウォークラリー・コンサート等々お母さん達の手作りの遊びの広場は、子ども達は、もちろん地域の方々からも大好評です。



みんなで広げよう 母親クラブを全国に

北海道・東北・関東ブロック
中部・近畿ブロック
中国・四国・九州ブロック
未結成

中部・近畿
ブロック

南地区母親クラブ

当クラブの活動は、毎年四月初めの会員募集から始まります。一番感謝しているのは、全ての広報活動や会員への案内の配布、集金が南小学校（担任の先生）を通して、して頂けるという事です。この事で確実に連絡が行き渡り、集金も非常に楽です。

続いて最大のイベントとして五月に一泊研修旅行を行います。本年度は三十五名の参加で奥越少年自然の家へ出かけました。新会員のお母さんも子供達も、この研修で名前と顔を覚え（夜のおしゃべり会でぐつと親密さが増します）一石二鳥の研修効果があります。

続いて、会員さんの指導で「クッキー作り」を楽しみました。意外に男の子達が楽しんでくれたのでホットしました。

秋には南児童センター主催の「秋祭り」をお手伝いしました。

本年度はやる気満々の役員が多かったので宿泊研修を二度にし、秋に鯖江青年の家へ二十五名で出かけました。小じんまりとした研修も又、家庭的な雰囲気でもいいものでした。

冬には子供達みんなが待っているクリスマス会を開きました。これは例年のことながら準備が大変ですが、役員さん達はいやな顔ひとつせず、おでんやスパゲティー作りに励んでくれます。子供達も交換するプレゼントを抱えて寒い中楽しそうに集まってくれます。準備の大変さなど吹き飛ばす笑顔です。

閉講式は例年中学の「しきぶ母親クラブ」と合同で行い、たいいてい講演会です。今年はずっとストレス解消法についてでした。

又、本年度は当母親クラブの新聞を創刊しました。クラブの存在と活動内容を地域の方々知っていただく最良の方法と考えたからです。

当クラブも年々行事が増え、役員さん達は大変な事も多いのですが、楽しみに集まって下さる会員さんの顔を見ると大変さも忘れてしまいます。これから若い世代の会員が増え、活動内容も変化するでしょうが、いつまでも魅力的な南地区母親クラブでありたいと願って会員一同がんばっています。



中国・四国
九州ブロック

松山市ともしび母親クラブ

松山市の「ともしび母親クラブ」は、「三世代の交流」を中心とした行事を実施しています。それは、「子育てを支援しよう」と「ともしびクラブ」が発足し、それから後に母親クラブが結成されたからです。現在、二十団体、約九百名の会員（母親のみ）で活動しています。三世代の主な活動として、ふれあいレクリエーションと野外活動研修があります。

レクリエーションでは、毎年単位クラブごとにもち回りで、企画から進行までを担当します。子供だけでも大人だけでもなく三世代が楽しめるものを考えなければなりません。競争をしながら人達の楽しそうな顔を見るとその苦労もよい思い出になります。また担当になることでクラブの連帯感も生まれてくるようです。

野外活動では、なるべくゆつくりと自然と親しめるように、幼児から参加できるウォークラリーやオリエンテーリングを取り入れ、一日のんびりと過ごせる時間を作っています。

その他研修会やチャリティーバザーも児童館に協賛していただきながら毎年実施し、昨年度からは人形劇も発足しました。

核家族が増え三世代の交流が減少している今、年代の違うグループの中で、いたわりや思いやりの心、そして母から子へ、子から孫へと伝承してゆけるものを少しでも引き出せる活動を目指して努力を続けていきます。



少子化に伴い会員を集めるのも一苦労、働いているお母さんの増加や週五日制の導入による他の地域行事の増加、私たちの活動の前の障害は多くなりましたが、これからも「三世代の交流」という大きな柱を中心に活動を進めていきたいと思えます。



行政だより



厚生省児童家庭局育成環境課
課長補佐 浦川 新氏

「はじめに」

この度、全国母親クラブ連絡協議会の情報紙として、「全国母親クラブだより」が発行されることとなりましたことをお祝いするとともに、この紙面をお借りして、会長はじめ役員、事務局の皆様方の尽力に、心から敬意の意を表します。

全国母親クラブ連絡協議会は、昭和四十九年に設立以来、地域の児童健全育成活動を担う団体として、様々な活動を行ってこられました。国としても昭和四十八年度から国庫補助制度を設け、その活動を応援してきました。制度発足当初の昭和四十八年度の国庫補助の対象クラブ数は600クラブでしたが、皆様の熱心な活動の積み重ねによって、平成八年度の国庫補助の対象クラブ数は3,836クラブと6倍以上の増加をみたところ。その後、平成八年度から都道府県地域組織連絡協議会の行う研修事業に対する助成制度を新設し、各県の母親クラブ連絡協議会活動の一層の活性化を図るなど、その充実に努めてまいりました。

「児童館との連携強化を」

母親クラブは、児童館を拠点として児童の健全育成をはかる組織活動を行うボランティア団体として、児童健全育成活動全般にわたって非常に大きな役割をはたしてま

いりました。

現在、児童館は全国で四千二百か所設置されているが、そのすべてで母親クラブの活動が活発に行われているとは言い難い状況にあります。これは、地域によって児童館が未設置であったり、児童館の協力がスムーズに得られない等様々な理由によるものと思えますが、母親クラブの皆さんにはできるだけ地域の児童館と連携して、多様な形で児童健全育成活動の推進を図って頂きたいと考えています。

母親クラブと児童館がともに活性化を図るためには、両者の協力が不可欠であり少子化の進行、地域の子育て機能の低下等子どもたちを取り巻く環境が大きく変化してきている現在、地域におけるボランティア活動の意義はますます重要なものとなってきています。

「母親クラブの活動の充実」

最後に、母親クラブの歴史は、それぞれ異なったものですが、各地の人々の献心的な活動に支えられてきたものと思います。そして現状では、社会状況の変化に伴い、地域によっては母親クラブに父親をはじめ様々な人々が参加するようになってきました。昨年の全国大会でも申し上げましたが、母親クラブという名称について、これを変えなければいけないということではありませんが、各地域において様々な見地から再検討し、議論を深めて頂きたいと考えております。

今後とも、母親クラブは様々な人々が気軽に参加できる地域の組織として、未来を担う子どもたちのために、児童健全育成活動の一層の充実を図り、地域の各種の団体等と積極的に連携しながら、多様な活動が行われることを期待しています。

関係団体紹介



よりよい子ども時代のために 全国児童館連合会のはたらき

(社)全国児童館連合会 常務理事事務局長
鈴木 一光氏

学校だけじゃだめなの？

伝統的な学校教育を受けることは、人間の発達にとって大切なことです。とはいえ、学校教育になじむのは、読み・書き・計算が中心になるのではないのでしょうか。

なぜなら、有名大学に入学することや、名声ある仕事につくための試験に合格することは、勉強した努力は認めますが、試験勉強のコツを飲み込んだりすれば多くの人手にとって可能なことです。しかし、他人の気持ちや思いやることにはじまり、品位あるしぐさとか、ユーモア精神とか、生じた問題に対処するのに絶妙な感覚などは、学校の勉強では培えません。試験で計れない資質です。

試験で計れないということは、個人的な努力や意思とは無関係であり、独りでは到達できないということです。

親子間で育む人に寄せる信頼をベースに、学校で形づくる骨格に「血と肉」をつける必要があります。それは教科書以外の小説や映画などと外遊び、そして学童期における友人との共感・喧嘩・妥協を含む交友関係です。

それらを活用して子どもの「生活の安定」

と「発達」を支援していくのが児童館・児童クラブの目標です。

全児連とは！

昭和三十年代、山形県で農繁期の子どもたちが放置されてしまう状況を憂い、当時二十八歳であった阿部千里氏（現理事長）は単身上京して、厚生省（当時児童館 諸管課は存在せず）に三年半に亘って子どもの利用施設の必要性を陳情し続けました。

その熱意が厚生省と政府を動かし、昭和三十八年児童館に初めて国庫補助が導入されることになりました。その後児童館は増加の一途をたどり、全国で三千か所を越えるに至りましたので、阿部氏は昭和五十年に社団法人として全国児童館連合会を設立しました。

本会は「福祉は人なり」の信念のもと、中心の事業に各都道府県（市）との連携による五種十六回の職員研修会の開催を実施しております。

研修会では本来の(1)子供の育成機能に加えて、エンゼルプランでも期待されている(2)子育て家庭支援機能としての①乳幼児教室や②児童クラブの全館実施を目指しています。また、そのためには(3)地域活動促進機能が不可欠と認識し、ボランティア室（母親クラブ員の溜まり場）の設置など、特に母親クラブと児童館の密接な協働関係を主張しております。

まだ熟していない児童館もありましたが、ぜひお近くの児童館の扉をノックしてみてください。





母と子の『たのしい音楽会』

ポニージャックスの「母と子のたのしい音楽会」開催される！

財団法人東邦生命社会福祉事業団では、児童の情操陶冶を図る文化イベント事業として、昭和五十年から日本を代表するポーカーグループ「ポニージャックス」と地元のママさんコーラス、少年少女合唱団が共演する「母と子のたのしい音楽会」を開催しております。

毎回1,000名を超える参加者を迎え好評を博しております。今年度は第一回を平成八年十二月二十六日(木)、「静岡市民文化会館大ホール」に満員のお客様(お子さまと一緒)2,000名を迎え開催されました。



この音楽会は事業団主催で、静岡県教育委員会、静岡市教育委員会、静岡県母親クラブ連絡協議会、友好企業等の後援を頂き、地元東邦生命静岡支社協力のもと盛況裡に開催され、市民の皆様から大変喜ばれました。

当日は、ポニージャックスと共演の地元マさんコーラス・少年少女合唱団によるディズニーメドレーをはじめとした懐かしい歌の数々が披露されました。

また第二部では、スライドミュージカル「やさしいライオン」も上映され、会場は熱気にあふれていました。

第二回は平成九年三月二十日(水)、「山形県民会館大ホール」で満員のお客様1,500名を迎え開催。

主催は同じく事業団で、後援として、山形県教育委員会、山形市教育委員会、山形県母親クラブ連絡協議会、友好企業等多数のご支援を頂き、併せて地元東邦生命山形支社協力のもと、第一回同様盛況裡に開催され、舞台と観客が一体となった楽しい音楽会となり、マスコミにも大きく取り上げられ、地域の皆さんから大変喜ばれました。

今後とも、年2〜3ヶ所にて開催していく予定です。皆様の地域での開催の際は、よろしくご協力下さい。

平成九年度は、
第一回目 平成九年
八月 六日(水)
於 愛媛県松山市

第二回目 平成九年
八月二十日(水)
於 秋田県秋田市
で開催予定。



新参与
高木 恵一



財団法人東邦生命社会福祉事業団の理事長が交替されました。

平成九年四月二十五日に開催されました同事業団の第三十一回理事會に於いて、理事長金栗健二氏が退任され、新理事長に高木恵一氏(東邦生命常務取締役)が就任されました。

同事業団の理事長は「全母協」の参与を、お願い致しておりますので、ここに高木新参与が誕生したわけです。

金栗前参与には、わずか一年間で「全母協」運営に対し、新しい提言等を賜わり、親身にお世話をいただきました。

今後のご健康をお祈りし深く感謝申し上げます。

なお、高木新参与には、今後私達「全母協」の運営に対してご指導賜り度くお願い申し上げます。

事務局だより

「全国母親クラブだより」の創刊号をお届け致します。今後、年二回「全母協」の情報紙として、発行されることになりました。

「全母協」事務局として、編集を担当させていただきますのでよろしく御願ひ致します。

なお、当事務局のメンバーを改めてご紹介申し上げます。当事務局は全国母親クラブ連絡協議会発足以来、東邦生命社会福祉事業団の職員が兼任させていただいております。

写真左より事務局長の山崎三鶴(ヤマサキミツル/通称サンカク・昨年4月就任) 事業担当の佐藤義道(在職5年のベテラン) 経理担当の紅一点、倉林良子嬢(在籍9年のベテラン) それに福祉事業の超ベテラン松尾忠孝(前事務局局長で現在事業顧問)の四名です。事務局運営につき今後ともよろしくご支援ご協力くださいますようお願い申し上げます。

